

山梨県における風疹の抗体保有状況とその解析
 (平成 17～ 18年度 2カ年)

山梨県民の風疹に対する感受性の状況を把握するため、風疹ウイルスに対する抗体の保有状況を調査した。本調査目的に同意を得て採取された山梨県住民 706 名(2005 年 363 名、2006 年 343 名)の血清について、赤血球凝集抑制試験により風疹抗体価を測定した。得られた結果について、抗体保有率および平均抗体価を性別、年齢層別に比較分析した。

その結果、5～19 歳の男女と 25 歳以上の男性の抗体保有率が低い傾向にあり、風疹に対して感受性が高くなっていることが示唆された。20 歳以上の女性は高率に抗体を保有しており、ワクチン接種効果の表れであると思われる(図 1)。

抗体保有者の平均抗体価は、5～14 歳で低い傾向にあり、幼少時のワクチン接種では免疫が獲得できていない、もしくは高く維持できていない可能性が考えられた。また、2006 年の平均抗体価は 2005 年よりも低下しており、獲得した免疫が経年的に低下してきている可能性が考えられた。

風疹の流行を防ぐためには抗体を獲得して高く維持していくことが重要である。このことから、ワクチンの未接種者だけではなく、ワクチン接種者であっても追加接種を勧奨していくことが重要と考えられた。

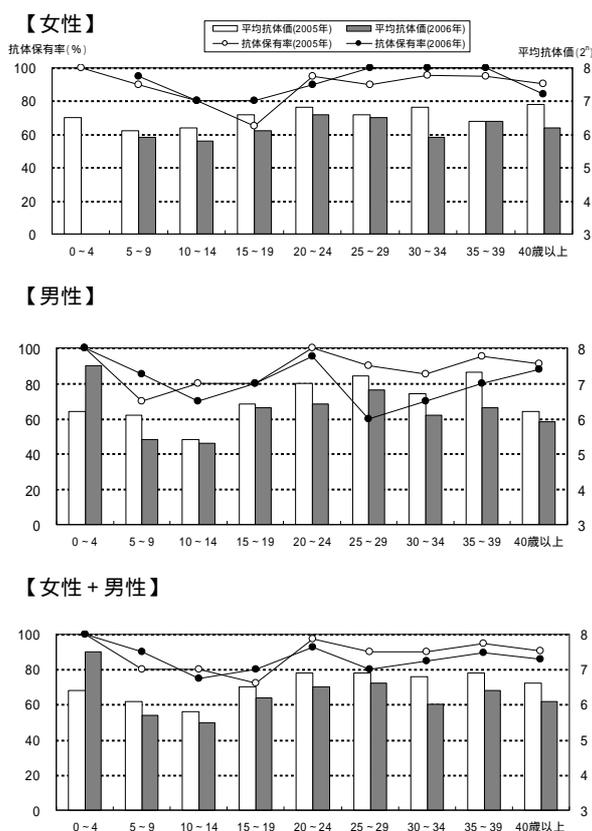


図 1 性別抗体保有状況